

県内のごみ処理状況について

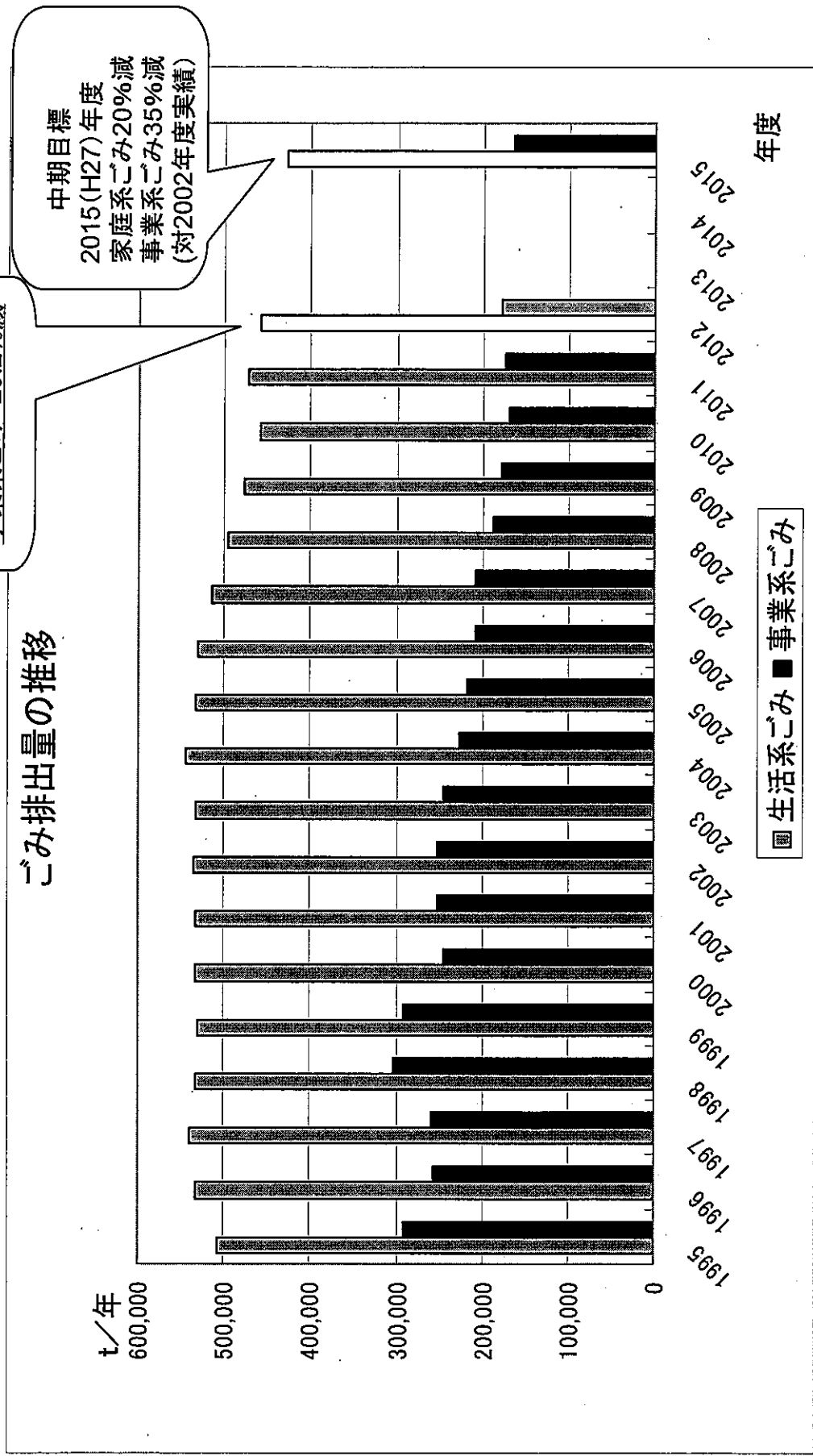
(平成24年度速報値)

(1) ごみゼロプランに掲げる数値目標に関する進捗状況

(トン/年)

指標名	2002年度 (確定値)	2011年度 (確定値)	2012年度 (速報値)	2002年度比		備考	短期目標 (2010)	中期目標 (2015)	数値目標 (2025)
ごみ排出量 (2002年度 比)	家庭系ごみ(t)	473,304	459,534	-14.1%	-	-	-6%	-20%	-30%
	事業系ごみ(t)	173,265	178,130	-29.2%	-	-	-5%	-35%	-45%
	計(t)	646,569	637,664	-19.0%	-	-	-	-	-
資源としての再利用率	14.0%	16.2%	15.4%	+1.4ポイント	-	-	21%	22%	50%
	再利用率(t)	110,781	104,922	98,213	-11.3%	-	-	-	-
(参考)資源化率	22.4%	31.1%	30.4%	+8.0ポイント	-	-	-	-	-
資源化量(t)	183,305	209,130	200,831	9.6%	-	-	-	-	-
	集回収量(t)	29,629	25,188	23,532	-20.6%	-	-	-	-
最終処分量(t)	151,386	50,893	41,940	-72.3%	-	-	81,000	55,000	0

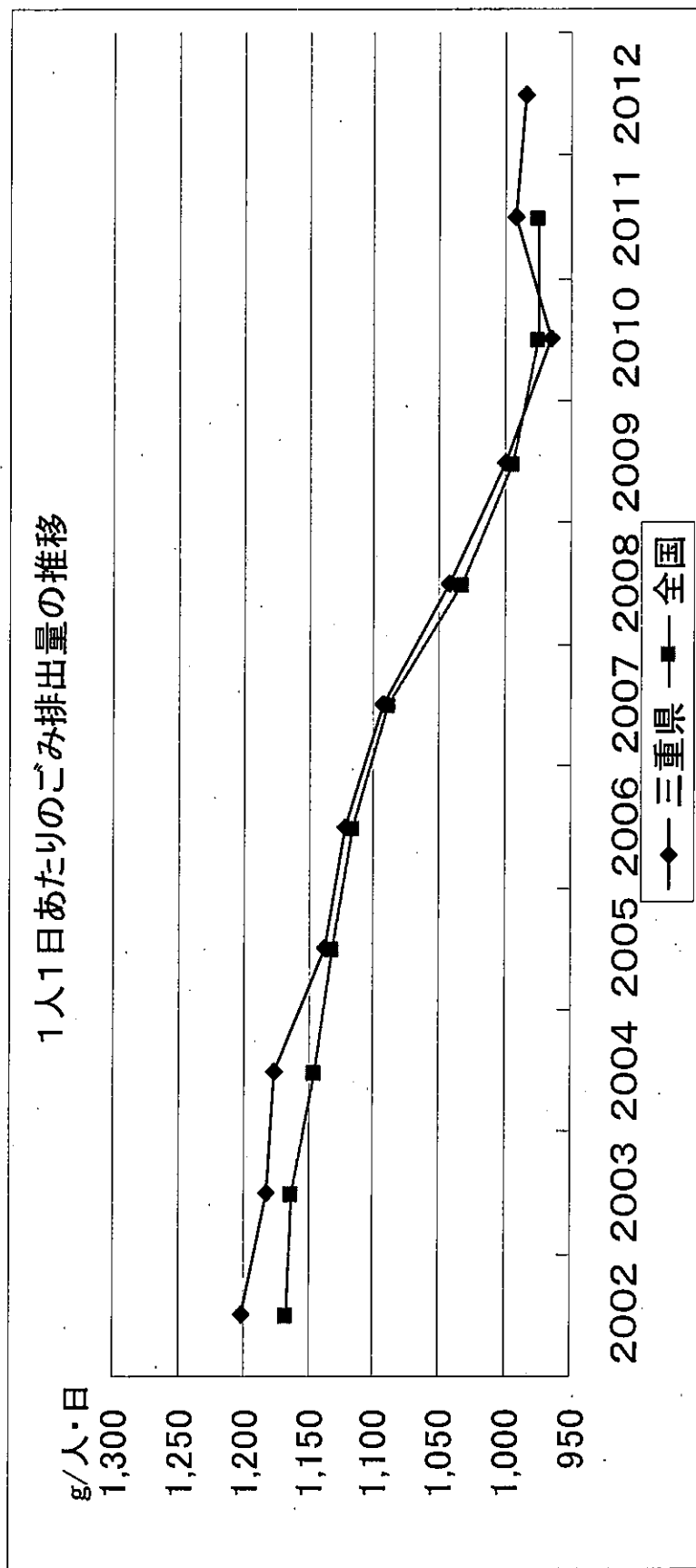
(2) ごみ排出量の推移



(3) 1人1日あたりのごみ排出量

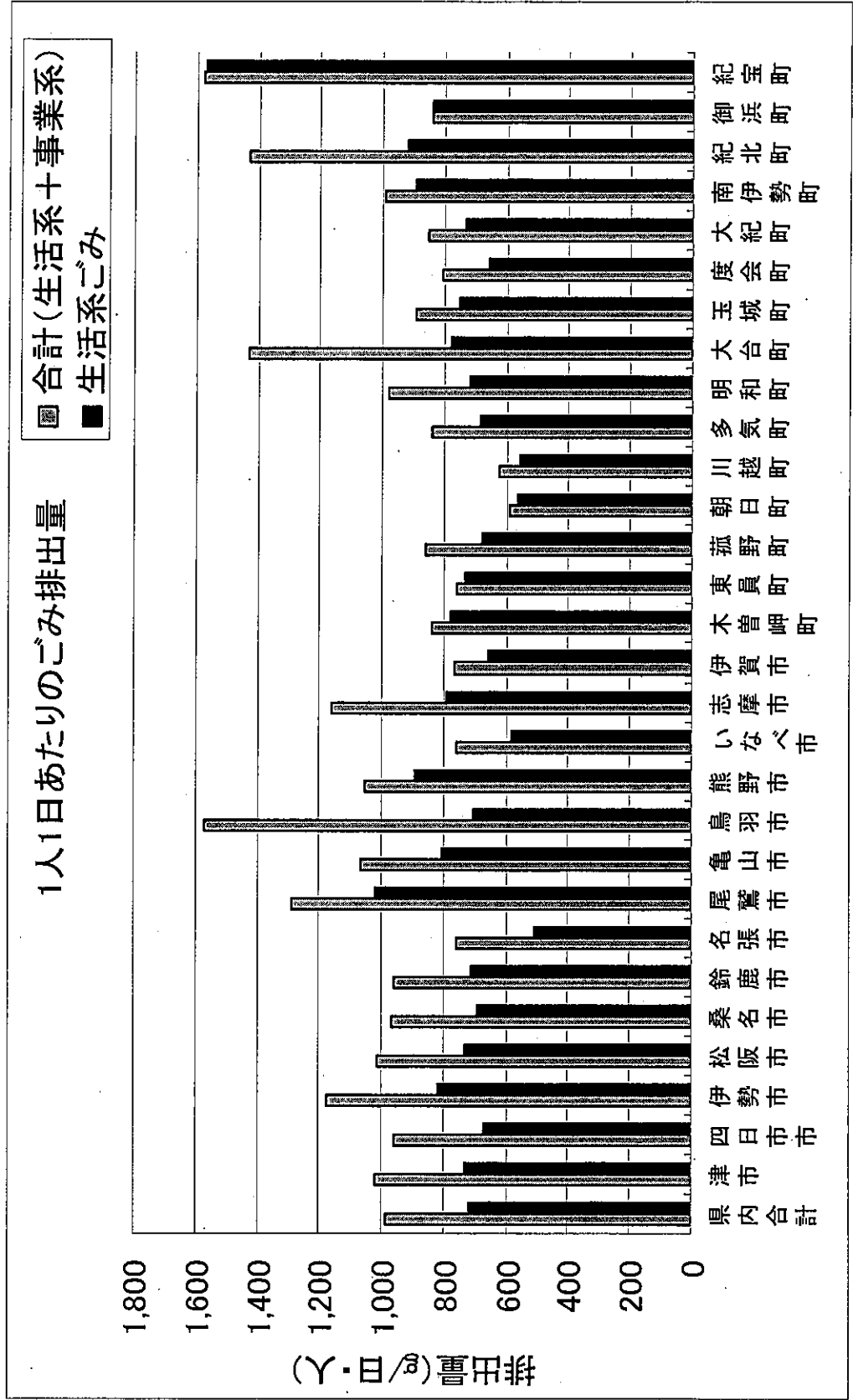
平成24年度の実績では985gと紀伊半島大水害で発生した災害廃棄物の処理が進んだことにより前年度(994g)と比べ減少しました。

平成24年度における市町ごとのごみ排出量を比較すると、最大は1,580g(紀宝町)、最小は588g(朝日町)と、災害廃棄物の処理が進んだ市町で、排出量の減少が見られましたが、その他の市町では横ばいとなっております。



(4) 1人1日あたりのごみ排出量（市町ごとの状況）

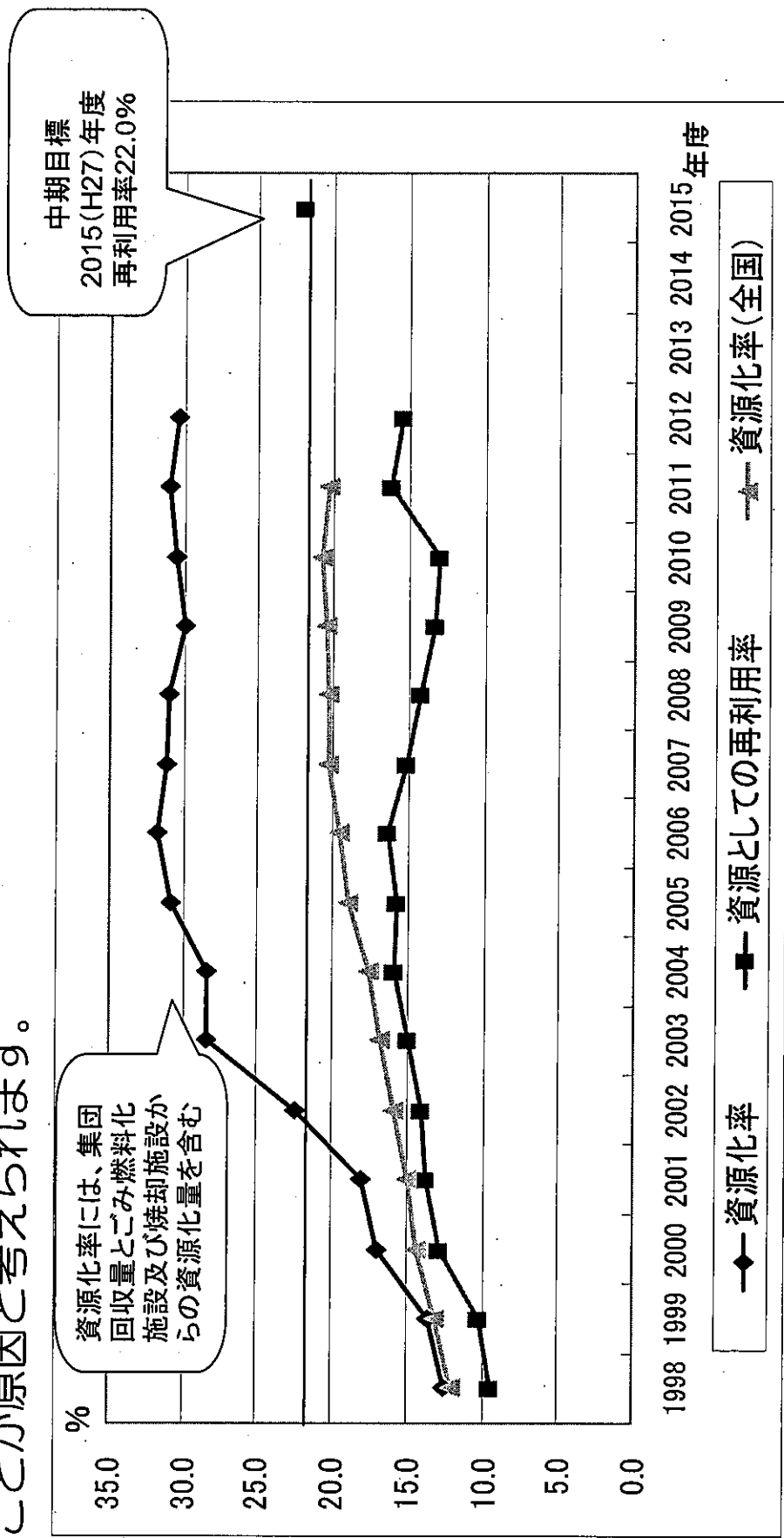
平成24年度における市町ごとの1人1日あたりのごみ排出量を比較すると、最大は1,580g（紀宝町）、最小は588g（朝日町）となっており、南勢地区以南で排出量（生活系）が多くなっています。



(5) 資源化率・資源としての再利用率の推移

平成24年度の資源としての再利用率は15.4%と、前年度と比較して0.8%減少しました。（災害発生前の平成23年度からは1.4%増加）

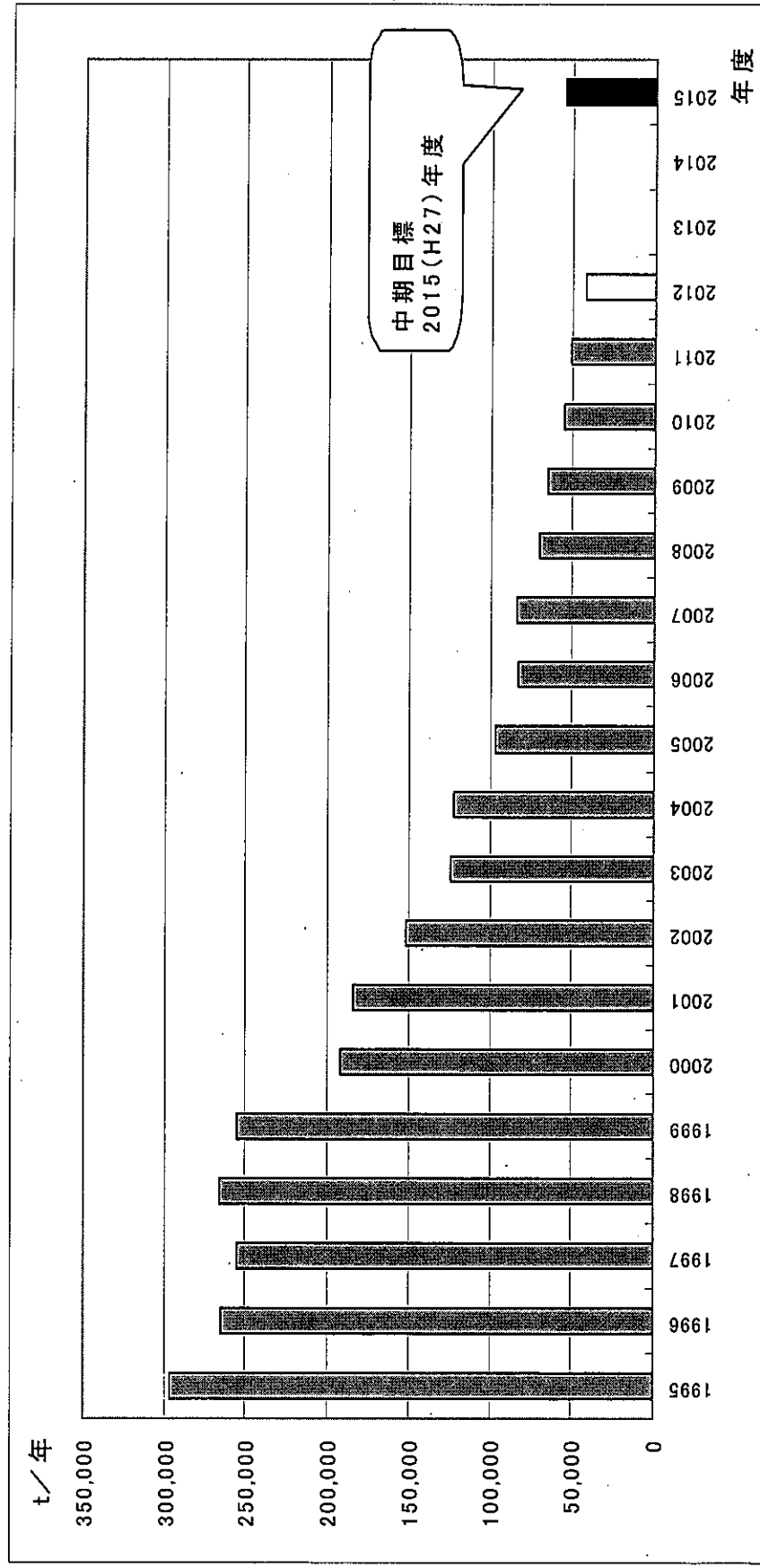
これは、平成23年度に紀伊半島大水害の災害廃棄物のリサイクルが進んだことにより増加していた再利用率が、災害廃棄物の処理が進んだことにより減少したことが原因と考えられます。



(6) 最終処分量の推移（災害廃棄物を除く）

平成24年度（2012年度）の最終処分量は41,940 tと、前年度（2011年度）50,893 tと比較して8,953 t減少しました。

これは、市町のごみの排出量の削減やごみ資源化の取組、最終処分場の延命化の取組などにより大きく減少したことが原因と考えられます。



ごみゼロプランの数値目標との比較

県内総ごみ量	
確定値	H14 788,053 対H14比
確定値	H23 646,953 -17.9%
速報値	H24 637,900 -19.1%

市町等により計画収集される以外の生活系ごみで、自家肥料や飼料として処理しているもの等

自家処理		①生活系ごみ		①事業系ごみ	
構成比		構成比		構成比	
0.1%	1,122	67.9%	535,198	31.9%	251,733
0.1%	384	73.2%	473,304	26.8%	173,265
0.0%	236	72.0%	459,534	27.9%	178,130

市民団体等による収集において、市町が用具の貸出、補助金等の交付などにより関与しているもの

集回収収量	
29,629	
25,188	-15.0%
23,532	-20.6%

発生・排出抑制

ごみ処理処分量

県内総ごみ排出量 (市町処理量)	
786,931	
646,569	-17.8%
637,664	-19.0%

埋立処分

直接埋立量	
構成比	
10.4%	81,811
3.8%	24,332
3.1%	20,066

焼却処理

直接焼却量	
構成比	
65.5%	515,273
63.1%	408,136
65.4%	417,169

中間処理

RDF化量	
構成比	
5.5%	43,181
13.3%	86,121
13.7%	87,296

資源化

直接資源化量	
構成比	
8.2%	64,321
7.2%	46,488
7.5%	47,718

その他中間処理量

構成比	
10.5%	82,345
12.6%	81,492
10.3%	65,415

再資源化・処理・処分

焼却処理量

構成比	
66.4%	522,329
65.0%	420,377
67.2%	428,443

焼却灰

20,087	
749	
10,422	
10,703	

資源化不適用

11,274	
48,143	

焼却残渣の焼却

47,718	
45,089	

資源化率

22.4%	183,305
31.1%	209,130
30.4%	200,831

焼却灰

中間処理後資源化	
焼却灰	RDF
21,015	21,880
11,415	49,058
20,087	48,143
	10,856
	5,406

資源化率

14.0%	110,781
16.2%	104,922
15.4%	98,213

資源化率

22.4%	183,305
31.1%	209,130
30.4%	200,831

資源化率

22.4%	183,305
31.1%	209,130
30.4%	200,831

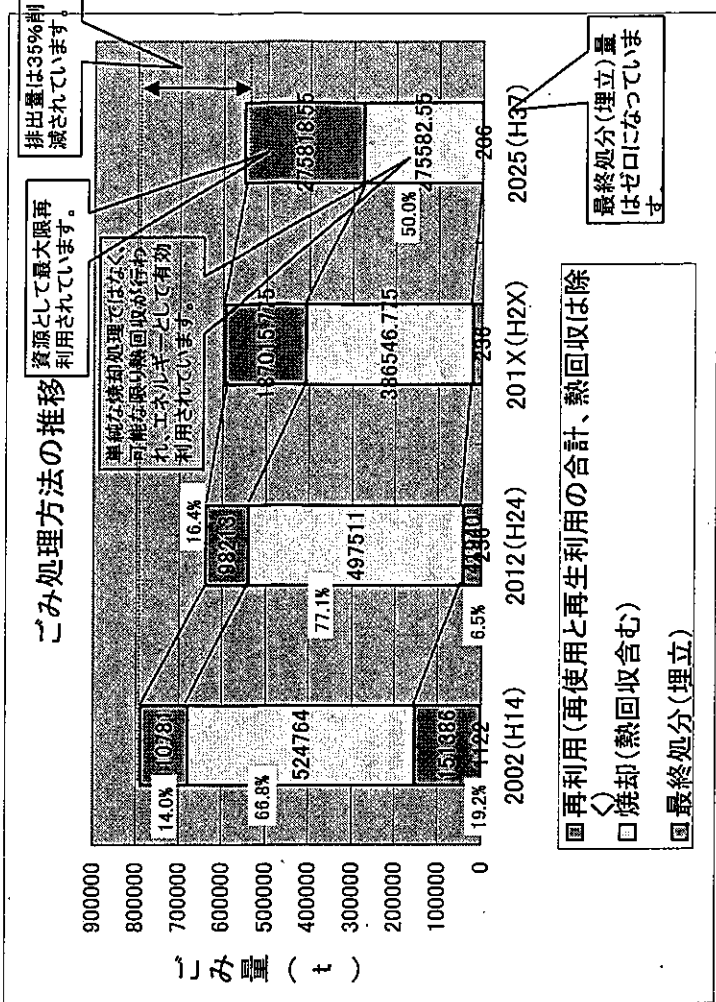
【ごみゼロ社会実現プラン数値目標】

① 発生・排出抑制に関する目標
 2002年度における県内総ごみ排出量
 -目標年度における県内総ごみ排出量
 ごみ排出量削減率 = $\frac{2002年度県内総ごみ排出量 - \text{目標年度における県内総ごみ排出量}}{2002年度県内総ごみ排出量}$

② 資源の有効利用に関する目標
 資源化総量 - (集回収収量 + 焼却灰) ÷ 焼却処理に係る資源化量
 資源としての再利用量 = $\frac{\text{資源化総量} - (\text{集回収収量} + \text{焼却灰})}{\text{焼却処理に係る資源化量}}$

③ ごみの適正処分にに関する目標
 県内総ごみ排出量のうち、最終処分された量(災害等特殊要因によるものを除く)
 ごみの最終処分量 = $\frac{\text{県内総ごみ排出量のうち、最終処分された量(災害等特殊要因によるものを除く)}}{\text{県内総ごみ排出量}}$

※ 〇は、H24速報値



排出量は35%削減されています。

資源として最大限再利用率は35%利用されています。

最終処分(埋立)量はゼロになっています。

